

本時の学習(3/3時分)

- (1) 主眼 文の足りない部分を考えたり、場面に合った助詞を選んだりする活動を通して、相手に正しく伝えるには、主語と述語の両方が必要なこと、助詞を正しく使うことが大切なことに気づくことができる。
- (2) 準備 大型モニター、教師用タブレット、児童用タブレット
- (3) 展開

展開	学習活動・学習内容	教師の手立て(○)と評価(◆)
つかむ	1 本時の学習課題を確認し、学習の見通しをもつ。 ・主語、述語の役割 ・学習課題の確認	○主語と述語を意味が通じるように組み合わせる活動を設定し、主語と述語のつながりについて確認する。 ○身近な会話から、主語や述語がない会話を取り上げ、本時の課題について考えさせる。
	相手に話を正しく伝えるには、何が大切なのか。	
深める	2 教科書の問題から、何が足りないのかを考える。 ・主語と述語の両方がないと、話が分かりづらいこと	○教科書を読み、児童に何が聞きたいかを問い返すことで、主語と述語のどちらが足りないのか見通しをもたせる。 【知】◆足りない主語や述語を補って文を書くことができたか。(ノート・発言)
	3 Scratchを利用して、場面に合った文になるようにプログラミングする。 ・助詞の使い方で文の意味が変わること	○始めにねずみのプログラムを見て、助詞が変わると意味が変わることを確認しておく。 ○活動の途中に間違ったプログラムを取り上げ、何が違うのかを友達と話し合わせることで、助詞を選んでプログラミングできるようにする。 【思】◆場面に合うように、助詞を選んでプログラムすることができたか。(タブレット・発言)
まとめる	4 練習問題を解いて、助詞の使い方の確認をする。	○問題のイラストを提示しておき、イラストをもとに文を考えることができるようにする。
	5 本時の学習を振り返る。	○相手に話を正しく伝えるときに、特に気を付けたいことを振り返りとして記入させる。 【主】◆主語と述語の必要性や助詞の使い方について振り返りを書いている。(ノート・発言)

(4) 児童の振り返りの予想例

「主語と述語の両方があるとお話分かる。」

「が、に、を などの文字が変わると意味も変わるので気を付けたい。」

「一文字ちがうだけで意味が変わるから、気をつけて話したい。」

(5) 板書計画

あい手に話を正しくつたえるために、大切なことは何だろう

主語 「だれが・何が」「だれは・何は」
 じゅつ語 「どうする」「どうした」「どんなだ」
 「何だ」「ある・いる」

○上手くつたわらないこと
 ○○くん・さんが、 のこっているよ
 ↓何かが足りない
 じゅつ語がない

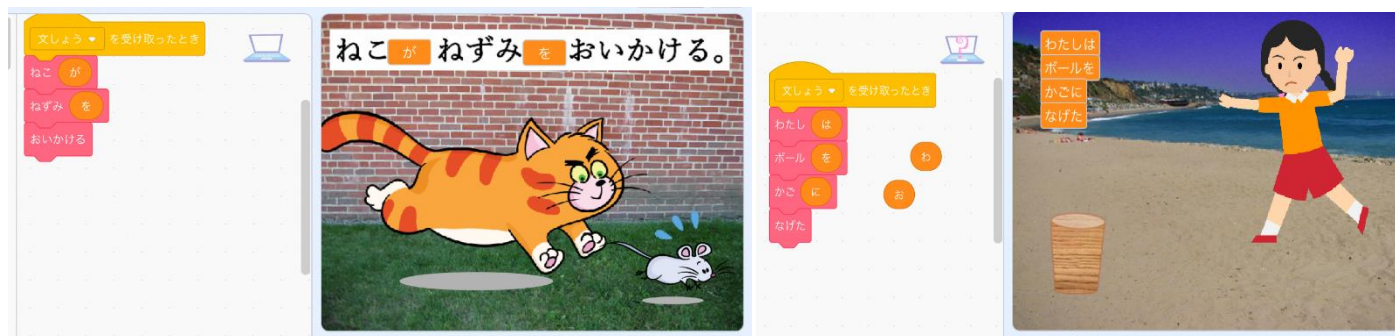
※ 主語とじゅつ語りようほうがあると
 分かりやすい。

◎お話に合うように言葉を入れよう！
 ポールを
 かごに
 投げるイラスト

練習問題の
 イラスト

気づいたこと
 ・「を」、「が」、「に」を正しくつかわないと、ちがう意味の文になってしまう。
 ふりかえり
 ・話を正しくつたえるには、どんなことに気をつけたらよいか。

プログラミング体験をする資料 (scratch)



練習問題 (Google Classroom を使用して)

わたし ごはん ふりかけ かける

に

は

を

が

わ

さる 山 にげて、きのみ たべた

に

は

を

が

わ